

令和4年度上大久保中学校だより

上中だより

第10号

令和5年2月1日(水)発行

学校教育目標

「温かい学校 感動あふれる学校」

さいたま市立上大久保中学校

〒338-0824 さいたま市桜区上大久保861-1 TEL855-3901

<http://kamiokubo-j@saitama-city.ed.jp>

「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」

けんもつ ゆきひこ

校長 監物 幸彦

いったい何が行き、逃げて、去るのでしょうか。これは、1月は新しい年が始まり、2月は普段より日数が少なく、3月は年度末や新しい生活の準備など、特に忙しい時期であるということから、そのあわたしさを表現したものです。言い換えると「1月～3月は、ぼんやりしていると、すぐに終わってしまいますよ。」と、注意を促す言葉です。実際に数えてみると、

○1月は冬休みがあるので、学校に来る日は18日。

○2月は短いので、学校に来る日は19日。

○3月は春休みがあるので、学校に来る日は17日、3年生は11日(卒業するので)。

また、「1月は行く」「2月は逃げる」「3月は去る」は、言葉遊びにもなっています。「1月」の「い」が「行く」で、「2月」の「に」が「逃げる」で、「3月」の「さ」が「去る」です。

令和5年がスタートしたばかりとと思っていましたが、1月もあっという間に「行って」しまいました。1日1日を大切にしたいと改めて思います。

さて、2月4日は立春。毎年、立春の頃になると、「早春賦」の歌詞である「春は名のみ、風の寒さや」という一節が思い出されます。(1年生の音楽の教科書に載っています)そして、次に思い出するのが、「冬来たりなば春遠からじ」という一節です。どんな厳しい冬であろうと、暖かい春は必ずやってくる、という意味ですが、たとえ今がたらくても、じつと耐えていけば、いつかは幸せが訪れる。そして、この言葉は、進路決定に向けて頑張っている3年生だけでなく、1、2年生にとっても「厳しくつらいことだけの連続じゃないよ。努力の後に喜びや楽しさは必ずやってくるよ」と励ましているように感じます。

今年度の残りも36日(3年生は30日)となり、まさに進級・進学準備を進める時期となりました。ぜひそれぞれが次のステージに向かって、人としてさらにひとまわり成長し、新たな生活のスタートを迎えてほしいと願っています。ここでは、次のステージをよりよくするために、全国学力・学習状況調査(以下全国学調)や学校評価の結果から、本校の生徒の実態について振り返りたいと思います。

まず、学習面では家庭学習の定着が図れていないことが課題として挙げられます。保護者の52%、生徒の27%が家庭学習が身につけていない(ほとんどしていない)と答えています。保護者と生徒の数値に開きがあるのは、生徒はやっているつもりだが保護者の目にはやっていると見えにくいということでしょう。全国学調のアンケート結果も、本校は全国平均から5ポイントほど低くなっています。家庭学習を定着させる方法として、1日5分でもいいから机にすわる習慣をつけることから始めると良いと言われます。今年度から全生徒が、学校でも自宅でもスタディサプリ(以下スタサプ)というアプリが使用できるようになっていることをご存じでしょうか。家庭学習をする習慣がない人には、まずこれを活用することをお勧めします。スタサプは教科書に準拠した授業の要点を1回約5分に凝縮した動画と演習を積み重ね学んでいくことができます。また、小学校4年生の内容までさかのぼって、学びなおしをすることができます。12月現在の本校生徒の活用率は34.8%です。これを、市の平均である約50%ぐらいまで伸ばせると良いと思っています。

生活面では、「あいさつ」「遅刻・チャイム席などの時間」「服装や持ち物などのきまり」のすべての項目で、「できている」「だいたいできている」という数値が90%を超えています。あいさつについては昨年と比較して5ポイント向上しました。さらに、生活の質を向上させるために、人としてのやさしさ、気配りについて触れてみたいと思います。

「仕草」という言葉があります。「身体の動きや様子」を表した言葉です。昔は「しぐさ」のことは「仕草」と書かずに「思草(しぐさ)」と書いていたそうです。これは、『思草』とは、思いと行動はもともと一つである」という意味からそう書いていたようで、思いだけでもダメ、行動だけでもダメ、思いと行動が一致して初めて意味を成すということのようです。江戸しぐさでは、傘を差してすれ違うときは、互いの傘を外側に向けて、相手にぶつかったり、しずくがかかったりしないようにする気配り、狭いところですれ違うとき、互いに体を横に向けて歩いたり、相手が行き過ぎるまで待ってあげたりする気配り等、いろいろな場面でのしぐさ、気配りが紹介されています。現在の状況はどうでしょうか。もちろん今も、上記のような気配りのできる人たちがいる一方で、なかなかそうしたことに気が回らない様子も見られる気がします。私自身、気を付けているつもりでも、時々配慮が足りない時があり大いに反省しています。

アンケートや学力状況調査等の数値は、客観的な学校の状況を判断する材料の一つにすぎません。数値には表れない子どもたちの成長や、日々奮闘している教職員の姿、PTAや地域の温かなご支援を校長として実感しています。数値に一喜一憂することなく、子供たちの成長を引き続き見守っていきたいと思います。